

# タイ王国現地事情視察会参加

## 報告書

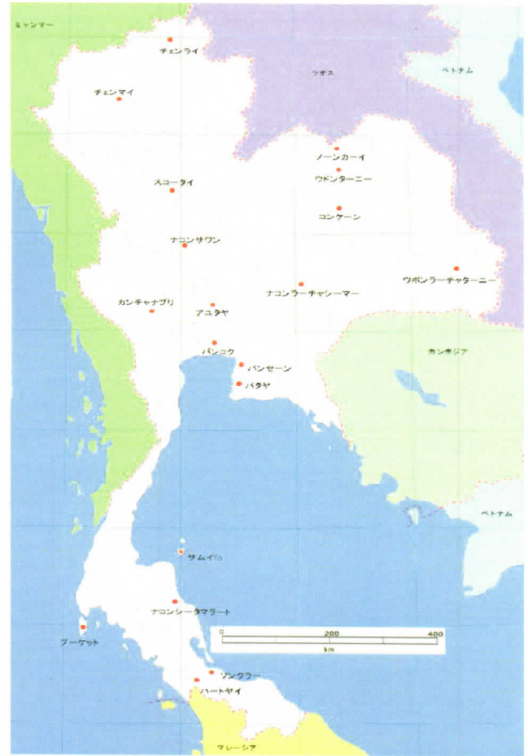
参加趣旨	
<p>私ども協同組合トピックスは1998年より中国からの技能実習生を受け入れてきました。約3年前にはベトナムの送り出し機関と協定を結びましたが受け入れ実績にはつながっていません。このような状況の中で近年チャイナプラスワンといわれるような中国の発展と様々なリスクの出現で中国離れが始まりました。その中の一国で多くの日本企業の進出が聞かれるタイ王国の現地事情について、今回、在日タイ王国大使館主催、JITCO 協力で実施の現地事情視察会を活用して直接確認して組合員の皆様に情報提供するようにしました。</p>	
参加者 杉浦和博(専務理事)	
日程	
2月24日(日) セントレア バンコク	9:00 中部国際空港 搭乗手続き 11:00 TG645 便出発 15:45 バンコク到着 JITCO 主催夕食会
2月25日(月) ナコンラチャシマ	午前 ナコンラチャシマ県へ移動(バスで3時間) 午後 西川ゴム工業会社訪問 アユタヤ県へ移動 夕食後遺跡見学 宿泊
2月26日(火) アユタヤ バンコク	午前 ハイテク工業団地(バーンワ工業団地)視察 ロジャナ工業団地ベステックス・タイランド社視察 帰国実習生と面談 午後 タイ・マルジュン社視察 帰国実習生と面談 バンコクへ移動 宿泊
2月27日(水) バンコク	午前 送り出し機関タイ・アラサワート・マンパワー社視察 アジア日本語学校視察 午後 タイ王国労働省雇用局 局長表敬訪問 チャオプラヤ川のディナークルーズ
2月28日(木) バンコク ラヨーン県 バンコク	(公式予定 午前 送り出し機関タイ・ワーカー・エンタープライズ・リクルートメント社 視察 午後 サムットプラカーン職業訓練校視察) 個人行動で終日 ラヨーン県 アマタ・シティー工業団地 組合員企業の株式会社 東海機械製作所殿 THAI TOKAI U-TEC CO.LTD の工場建設現場を訪問 22:00 バンコク・スワンナプーム国際空港 搭乗手続き
3月1日(金) バンコク セントレア	00:05 TG644 便出発 07:30 中部国際空港到着

## タイ王国視察報告



タイ王国の首都バンコクへは2月24日午後3時過ぎバンコク・スワンナプーム国際空港に到着(セントレアからタイ国際航空とJALの共同運航便が毎日就航・全日空との共同運航便が週5便就航)日本との時差は2時間。正味フライト時間は6時間45分。

タイ王国は、13世紀のスコータイ王朝に始まり、アユタヤ王朝、トンブリー王朝を経て現在のチャックリー王朝に至る。1932年立憲革命。立憲君主国である。元首は、プーミポン・アドゥンヤデート国王(ラーマ9世)。国土面積は514,000km<sup>2</sup>(日本の約1.4倍)・人口は6,408万人ほとんどがタイ族。華僑、マレー族、山岳少数民族。公用語は男女で違いのある挨拶サワディカー、サワディカップというタイ語。95%が小乗仏教徒、イスラム教徒4%、キリスト教徒0.6%。主な貿易相手国は中国・日本・米国・マレーシア



**現**地集合場所となった空港到着ロビーで日本各地からの到着便を待ち貸切バスに乗り、整備された高速道路でバンコク



市内に入るとJITCO主催の夕食会。参加者は、監理団体である組合関係者は17名中約1/4が中国人で驚き。駐日タイ王国大使館参事官ほか1名、JITCO常務理事ほか2名の総員22名。中華料理の甘い味付けが印象的だった。宿泊はシロム通にあるNARAIホテル。ホテルの窓から望む景色は高層ビルや車がひしめく通りなど近代的でとても賑やかな印象。一步入った裏通りには露店が並び観光客が行き交う。





バンコクを2月25日早朝出発しナコンラチャシマ県へ向かう。

バスの車中で聞いた情報では、タイ王国では男性は21才になるとくじ引きによる徴兵制度がある。また、田舎では男性 20 才、女性 18 才位で結婚するのが普通。ハイオクガソリンが40バーツ/ℓ(約100円)と

かなり高い。大型トラックは燃料高を理由に LPG、エタノール燃料車が多い。バンコク市内は現地仕様のカローラとカムリ、ホンダの車両が圧倒的に多く、地方ではトヨタといすゞのピックアップ車両が目立っていた。

西川・タチャプララート・クーパーを午後訪問。斎藤社長から説明を受けた。広島市に本社のある西川ゴム工業株式会社の海外拠点の一つ。自動車のドアやボンネットのゴム製シール材を製造。6割をマツダへ納入している。バンコク



から259kmタイ東部のナコーンラーチャシーマー(通称コラート)県に立地。バンコクに事務所を置き生産拠点は2箇所。BOIゾーン3で高い恩典を受ける。従業員1,111名の6割が女性、うち日本人は9名。平均年齢30才位。海外進出は、進出先の国情を宗教や労働組合の状況を含めて十分調査する事が重要。離職率は3%。ただし入社後日浅いものほど高い。求人はポスターやインターネットで行っている。昨年までは日額255バーツの賃金。本年1月より日額最賃が300バーツになった。ここ2・3年で倍になっている。本社に送り出した実習生は残業したい意欲が強く、優先的にさせていた。帰国後給与アップをすることから失踪者はいない。



帰国後就労実習生10人(女性)との意見交換。入社10

年前後。高校短大卒が多い。応募目的は、家族の生活改善や日本を知りたい知識欲や好奇心から。実習の結果、仕事の内容が変わった。日本語が少し話せる。社内で日本語を使う。農家出身者が多い。兼業農家としてはたらく。

いつかは自分で独立して仕事をしたい。結婚してから実習に行った。日本の印象は清潔、風光明媚なところ。日本人の優しさや面倒見がいいところ。感謝の言葉や挨拶が好き。専門用語に最初苦

労した。交通マナーやゴミ処理の違いで帰国後戸惑った。受け入れた本社西川ゴム工業株式会社では、宮島や大阪に慰安旅行に連れて行った。

アユタヤ市内にあるハイテク工業団地を2月26日午前視察。進出企業はエレクトロニクス関連 70%、他に食品加工、物流など。当工業団地は各種免税の恩恵があるゾーン 2(ゾーン 3 は首都バンコクから 100km を超える条件がある)。工業団地内に従業員アパート、レストランなども完備。タイ投資委員会(BOI)の審査許可を受けて進出。既に工業団地を取り囲むコンクリートの堤防を築き、洪水対策は 100%完了。従業員は現地人が多く、一部東北部の人(工業団地総従業員 5 万人)求人難、人材不足である。独自に各社で求人をしている。工業団地内の外国人労働者の就労ビザ申請をワンストップサービスで行っている。年 3 回以下の停電に備え各工場で自家発電設備を備えている。



ベストエックス(タイランド)2月26日午前アユタヤ市内視察。本社は三重県四日市市にある株式会社ベストエックスコーエイの現地法人。ホンダ向け金属製インナー部品をプレス、溶接板金、メッキ、カチオン塗装、パイプベンダー曲げ加工等の工程で生産している。

若い労働力を確保するために、タイの工業・商業高校のインターンシップ制を利用し、更に定着させる目的で親会社に実習制度に則って送り出している。帰国後の定着率は約 6 割程度となっている。4・5 年前求人に殺到する状況からは大きく変わり従業員募集は困難になっている。帰国後の就職もサポートすると実習生希望者が質量共に変わった。実習生経験者の給与処遇の工夫も必要。タイでのビザ発給審査は親族調査もあり、数年前までは 3 割が不許可となる状況。氏名や戸籍の変更が自由な制度となっていることもあるため苦労した。

意見交換を昨年 12 月に実習を満了し帰国したラオス国境付近の出身者とした。好感が持てる印象を受けた。





**タイ・マルジュン**を2月26日午後訪問。本社は大垣市にある株式会社丸順の現地法人。ホンダの出資を受けている。工場すべてが4mの洪水に2年前に飲み込まれた。5ヶ月かかって復旧させた。

ホンダ、スズキ自動車向け自動車用アンダーボディ関係部品、汎用エンジンタンクを金型製造工程から

プレス、板金、塗装工程で製造。新工場を建設中で最新の自動化ライン立ち上げ省人化を図ることで、労務費コストを圧縮できる。本社には通訳や翻訳をできる人がいないなどの理由で当初から団体管理型を使って当社従業員を実習生として受け入れ、帰国後復職している。

**実習**満了帰国者と面談。実習を希望した理由は家族の生活改善。日本の仕事のやり方を勉強できて良かった。日本の給料はタイと比べ物にならないと感じている。実習で稼いだお金は、結婚資金や自動車の購入にあてた。実習生同志団結して困難を乗り越えることが出来て良かった。チャンスがあれば再び日本で働きたいと思う。実習制度が3年間から5年間になって欲しい。



**送**出し機関タイサワラート マンパワー2月27日午前訪問。社長、日本語学校長、事務長など関係者10数名同席。視察訪問に参加した西海協の協定先送出し機関。日本人スタッフ常駐。社長挨拶(女性)、改善をしたシステムを紹介。これから

の実習生送り出し人数増加を期待する。単なる出稼ぎと考えず帰国後のタイの将来を担う人材の育成を目指したシステム改善を



説明。かつて失踪が極めて高かった。ブローカー経由での高額紹介料による借金苦。日本語力が低くコミュニケーション不足が原因だった。そこでブローカーの排除や、実習生と送り出し機関の信頼

関係の構築改善。二十歳前後の高学歴者の応募者選抜と日本語教育の充実工夫を紹介。帰国後のフォローにも力を入れる。日本語学校は実習生専門の教育機関と位置付けている。技能の低さが来日後支障にならないよう技能訓練も取り入れてタイ国内企業で実務訓練を1ヶ月行うようにした。日本語はかなり苦労している。平均 6 か月間の日本語教育で N4 取得レベルを確保。語学力は男性より女性の方が上手な感じ。実習満了帰国者は日系企業で営業職として就労している。日本の中部地方、中国地方に在留者が多くいる。面接前の検診や家族の同意。組合でクレペリン検査を使う。採用希望人数の2倍～3倍を面接 求人応募者は5倍くらいか。Webを活用して日本語や講習内容の理解度を組合でチェックしている。



**労働省**雇用局 2月27日午後表敬訪問。雇用局長に代わり副局長と会談。日本への派遣の審査アドバイスをする権限を持つ。冒頭、管理団体として代表挨拶。当局への職種の拡大の依頼もする覚悟があると表明。

ウィナイ副局長より『洪水の時に撤退しないと初めに日本の企業が表明したことが全体の進出企業が残る判断をする呼び水になって感謝している。』と謝意を述べられた。良い人材の派遣品質の確保のため送り出し機関の監視をしている。帰国後の実習生の情報により評判がよくなるように期待している。タイ王国の海外派遣要請は中東アフリカ地域で溶接工が強く、農業もイスラエルや韓国で人気が高い。マカオではサービス業の求人もあり職業訓練を実施している。タイの制度で改正して欲しい点があれば伝えて欲しい。監理団体もタイの送出し機関の指導や指摘をして欲しい。日本語教育について、能力開発局があるので必要があれば検討する。





タイ国での書類審査期間の短縮についてお願い。審査期間には基準がある。一方で送出し機関の対応の遅れもあるので注意して欲しい。各国の大使館内労働事務局に問い合わせをして欲しい。帰国後の就労先が実習職種外になる傾向に歯止めが欲しいが帰国者のフォローがむづかしい。

賃金水準の目標値について、政府としては最賃を2

年間は据え置く予定。現在は人材のスキルアップを目標にする。

ラヨーン県 プルワックデー郡 2月28日タイ工業団地公社が運営するアマタ・シティー工業団地

にある組合員企業の 株式会社東海機械製作所殿 THAI TOKAI U-TEC CO.LTD の工

場建設現場を訪問。バンコクから115kmの南東部に位置し洪水とは無縁の場所。割と平坦な丘陵地帯が広大に続く場所にある工業団地。東海理化・山下金型・横浜ゴム・ダイキン工業などが進出している。隣はBMW社が操業中。

今年8月には竣工操業開始予定で現在建物の外装を雨季になる前に済ませるため急ピッチで建設中

